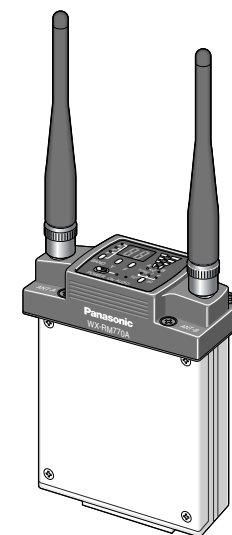


取扱説明書

ワイヤレス受信機

品番 WX-RM770A

RAMSA



上手に使って上手に節電

保証書別添付

このたびは、ワイヤレス受信機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」(6ページ~8ページ)は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

商品概要

WX-RM770A（以下、本機）は、UniSlotに対応したカメラと組み合わせて使用するカメラ組込型ENG/EFPワイヤレス受信機です。FPU-4帯（797 MHz～806 MHz）、B帯（806 MHz～810 MHz）に対応しています。

- 800 MHz帯の採用により、コンピューターの雑音や調光コントロール、都市雑音などの影響を受けにくくなっています。
- PLLシンセサイザー方式の採用により、A帯（FPU-4帯）71波・B帯30波の計101波の中から希望の周波数を選択できます。
- レベルスケルチを解除／2 dB／12 dBから選択でき、トーンスケルチの設定／解除を切り替えることができるため、使用現場にあった設定が可能です。
- グループ・チャンネル表示には、見やすいLED（発光ダイオード）を採用しています。

※ 本書に掲載している別売品の品番は、2006年6月現在のものです。

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）..... 1冊
保証書..... 1式

登録商標について

- UniSlotは池上通信機株式会社の登録商標です。

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
 - ②お客様の故意や誤使用、不注意による障害または本商品の損傷など
 - ③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず発生した一切の故障または不具合
 - ④本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことで被る不便・損害・被害
 - ⑤第三者の機器等と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
 - ⑥第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害
 - ⑦故意または偶然の結果、通話内容が第三者に傍受・漏えいすることによる不便・損害・被害
- 本商品の無線通話はアナログ方式を採用しており、傍受を抑止する機能はありません。故意または偶然の結果、第三者が傍受し、通話内容を知り得ることがあります。

用語について

本書では、以下の用語を用いて説明しています。

受信機

ワイヤレスシステムにおける、電波を受信する機器の総称です。本書の中では、本機を含めたワイヤレス受信機のことを指します。

送信機

ワイヤレスシステムにおける、電波を送信する機器の総称です。

ダイバシティ方式

複数のアンテナで受信した信号のうち、電波の安定している側の信号を採用する方式です。本機では、A系とB系のそれぞれに受信部を持ち、安定した信号を選択して受信します。

PLL (フェーズロックドループ) シンセサイザー方式

自動的に周波数のずれを修正し、安定して信号を受信する方式です。

スケルチ機能

受信待ち状態のときに、あらかじめ設定された条件によって受信する電波を自動的に制限し、必要な信号のみを受信する機能です。受信状態のことを「スケルチが開いた状態」と表現し、逆に受信していない状態は「スケルチが閉じた状態」と表現する場合があります。

本機には、RAMSAシリーズの送信機からの特定周波数を含まない電波を回避する「トーンスケルチ機能」と、受信感度を下げることによって混信してくる弱い電波を回避する「レベル

スケルチ機能」の2つの機能があります。

バンド

本機で受信する周波数帯域のことです。本機では、FPU-4帯に対応するA帯をALバンド・AHバンドとし、Bバンドを含めた3バンドからバンドを選択します(28ページの「FPU (フィールドピックアップユニット) 帯域とバンドの関係」をお読みください)。

グループ

各チャンネルの受信周波数を、同一場所で混信しないように、あらかじめ選択し、組み合わせたものです。使用目的や環境に合わせて選択します。

チャンネル

同一グループ内で、同時に受信可能な周波数に番号をつけたものです。単に周波数を数えるときは、1波、2波・・・と数えます。

多チャンネル

送信機を同時に8台以上使用する設定です。1つのバンドで同時使用できるのは7波までのため、8波以上を使用する場合には複数のバンドを組み合わせる、多チャンネルを使用します。本機を使用してシステムを組むと、最大12波を同時に使用できます。詳しくは21~22ページをお読みください。

はじめに

商品概要.....	2
付属品をご確認ください.....	2
登録商標について.....	2
免責について.....	3
用語について.....	4
安全上のご注意.....	6
使用上のお願い.....	9
各部の名前と働き.....	11

使いかた

アンテナの接続.....	14
カメラに取り付ける.....	15
電源を入れる／切る.....	16
電源スイッチで電源を入れる／切る.....	16
電源リモート機能を使う.....	16
周波数・スケルチを設定する.....	17
バンド・グループ・チャンネルを設定する.....	17
スケルチを設定する.....	19
複数の送信機の同時使用について.....	21
チャンネルの使用状況を確認する(スキャン機能).....	23
本機の状態を確認する.....	25
周波数を確認する.....	25
電源電圧を確認する.....	25
多チャンネル使用時のバンド・グループ・チャンネルを確認する.....	26
受信レベルの強弱を確認する(RFワーニング機能).....	26


補足


UniSlotインターフェースコネクタについて.....	27
お買い上げ時の設定について.....	28
FPU (フィールドピックアップユニット) 帯域とバンドの関係.....	28
周波数表.....	29
故障かな!?!.....	34
仕様.....	38
保証とアフターサービス.....	42

安全上のご注意 必ずお守りください



お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。


■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 **警告** この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

 **注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。


■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は絵表示の一例です。)

  このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

 この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。


警告

屋外で使用するとき雷が鳴り出したら、体から離す

 落雷の原因になります。

- ただちに使用をやめ、体から本機を遠ざけてください。

分解しない、改造しない

 火災や感電の原因になります。

分解禁止

- 修理や点検は、販売店にご依頼ください。

警告

航空機内では電源を切る



運行の安全に支障をきたす恐れがあります。

心臓ペースメーカー装着者は使用しない



禁止

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

医用電気機器に近づけない
(手術室、集中治療室、CCU※などには持ち込まない)



禁止

本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

- ※CCUとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。

心臓ペースメーカー装着者に配慮して、満員電車などの人混みでは電源を切る



本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない



禁止

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

⚠ 警告

異常があるときはすぐ使用をやめる



煙が出る、においがするなどそのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに、販売店にご連絡ください。

⚠ 警告、⚠ 注意に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

取り扱い上のおお願い

- 本機はFPU-4帯（797 MHz～806 MHz）、B帯（806 MHz～810 MHz）で、RAMSAシリーズのトーン周波数32.927 kHzを含む送信機に対応しています。
- 本機内部にある各電気回路は、工場で各種の精密な測定器を用いて厳密に調整されておりますので、ねじをゆるめたり、改造したりしないでください。
- パワーアンプ、ビデオモニター、測定器などの発熱の多い機器の上や、夏の閉め切った車の中に放置しないでください。
- なるべく乾燥したところに保管してください。
- 高精度の調整がしてありますので、強い衝撃を受けたり、床などに落とすと特性が変化することがあります。取り扱いには十分ご注意ください。本機に衝撃などが加わると本機より衝撃音が発生し、出力されますので、衝撃を加えないようにしてください。
- 本機は防滴型ですが、防雨型ではありませんので、雨の中での使用や直接水のかかる場所では使用しないでください。
- 本機は、周囲温度0℃～+40℃の範囲で使用してください。
- 保管の際は、高温、多湿な場所は避けてください。
- カメラのスロット部内の温度が+40℃を超える場合は、一部、仕様から外れる場合がありますのでご注意ください。

上手な使いかた

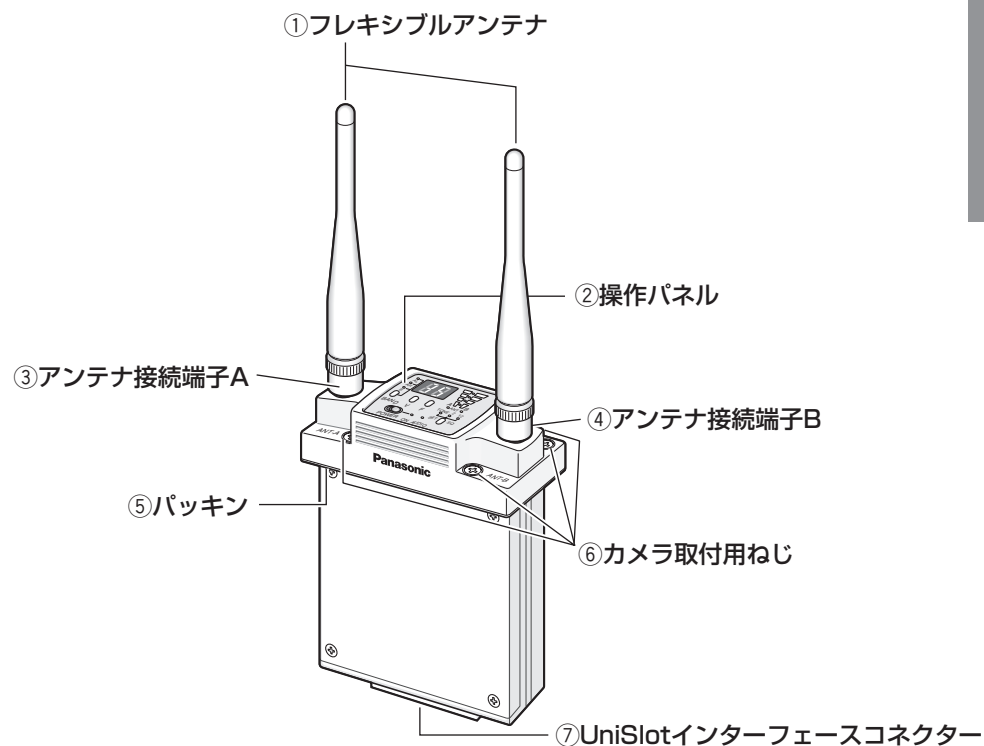
- 本機および送信機の電源ON/OFF時にクリック音が発生する場合があります。ワイヤレスシステムの電源ON/OFFは、カメラの収録前後に行うようにしてください。
- 本機は、回転機、変圧器、自動車のイグニッション雑音の影響を受けにくい場所を選んで使用してください。
- 送信機と本機のあいだに、電波を吸収するコンクリートや大勢の人が入ると、受信レベルが低下し、到達距離が短くなります。

- 取り付けるカメラの種類により、本機の受信レベル表示が点灯する場合があります。そのままの状態で使用すると、受信感度が低下したり雑音が発生したりすることがあります。別のチャンネルに設定してください。
- 本機のアンテナを布などで覆わないでください。アンテナの効率が低下し、到達距離が短くなります。
- 本機と送信機は同じ周波数を組み合わせて使用してください。
- 送信機を使用しないときは、本機の電源を切ってください。
- 多チャンネル使用の場合は、受信機間の干渉を避けるため、受信機間の距離を50 cm以上離して使用してください。
- 送信機同士の距離は50 cm以上離し、送信機と本機との距離は2 m以上離してください。周波数の干渉により混信を起こし、耳障りな雑音が発生する恐れがあります。
- 本機内部のねじなどは絶対に触らないでください。特性の変化や故障の原因になります。

お手入れについて

- 電源を切り乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナーなど揮発性のものをかけたり、使用したりしないでください。製品が変色することがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

■ 本体



① フレキシブルアンテナ

電波を受信します。

② 操作パネル

本機の設定や状態の確認を行います。
(☞ 12～13ページ)

③ アンテナ接続端子A [ANT-A]

④ アンテナ接続端子B [ANT-B]

フレキシブルアンテナを接続します。
(☞ 14ページ)

⑤ パッキン

⑥ カメラ取付用ねじ

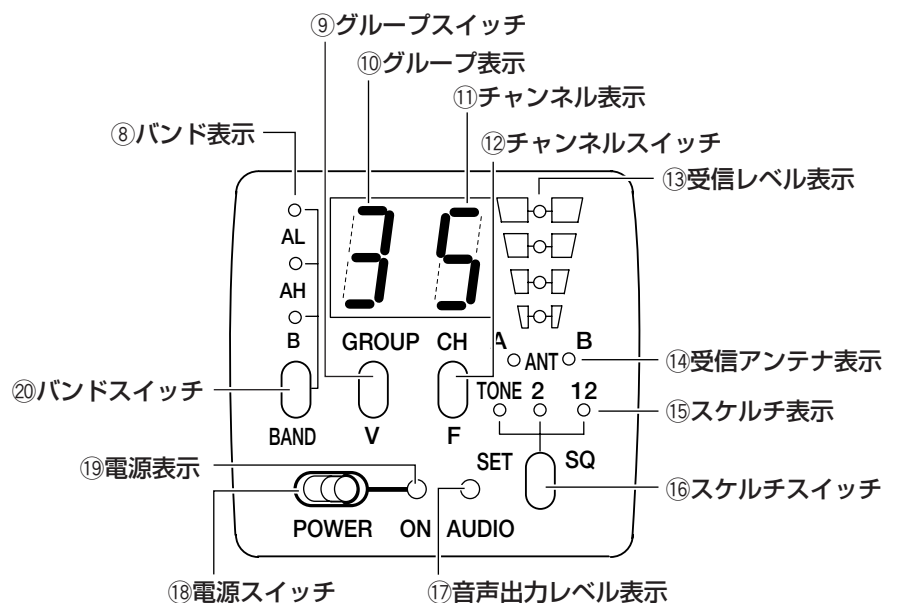
カメラの-slot部に本機を取り付けるときに使用します。
(☞ 15ページ)

⑦ UniSlotインターフェースコネクター

UniSlotインターフェースを持つ機器のコネクターと接続します。

各部の名前と働き (つづき)

■操作パネル



⑧ **バンド表示** [AL] / [AH] / [B]
使用中のバンドを表示します。

⑨ **グループスイッチ** [GROUP] / [V]
使用するグループを選択します。
(☞17～18ページ)

⑩ **グループ表示** [GROUP]
使用中のグループを表示します。

⑪ **チャンネル表示** [CH]
使用中のチャンネルを表示します。

⑫ **チャンネルスイッチ** [CH] / [F]
グループスイッチで選択したグループの中のチャンネルを選択します。
(☞17～18ページ)

⑬ **受信レベル表示**
受信している電波の強さを4段階で表示します。(☞26ページ)

⑭ **受信アンテナ表示** [A] / [B]
受信しているアンテナを表示します。A系アンテナで受信している場合は左側の表示が、B系アンテナで受信している場合は右側の表示が点灯します。

⑮ **スケルチ表示**

[TONE] / [2] / [12]
設定されているスケルチの状態を表示します。(☞20ページ)

⑯ **スケルチスイッチ** [SQ] / [SET]
スケルチの設定を選択します。
(☞19～20ページ)

⑰ **音声出力レベル表示** [AUDIO]
音声出力のレベルを3段階で表示します。
最大出力レベル(最大変調出力)に対して
0 dB～-6 dB : 赤色点灯
-6 dB～-36 dB : 緑色点灯
-36 dB未満 : 消灯
(常温25℃使用時)

⑱ **電源スイッチ** [POWER]
本機の電源をON/OFFします。
(☞16ページ)

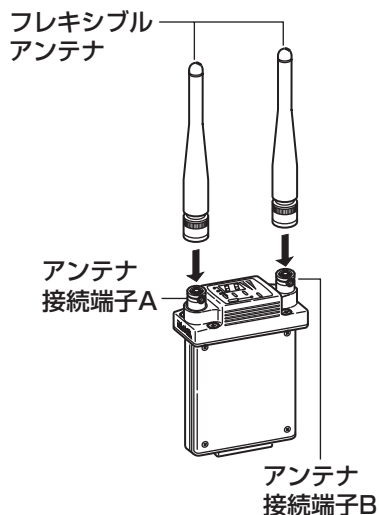
⑲ **電源表示** [ON]
本機の電源ON/OFF状態を表示します。

⑳ **バンドスイッチ** [BAND]
使用するバンドを選択します。
(☞17～18ページ)

アンテナの接続

1 アンテナ接続端子A、アンテナ接続端子Bそれぞれに、フレキシブルアンテナを接続します。

- お買い上げ時、フレキシブルアンテナは、装着されています。
- フレキシブルアンテナは、アンテナ接続端子を保護するために、使用しないときでもできるだけ外さないでください。



カメラに取り付ける

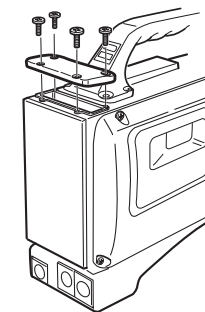
本機をカメラに取り付けます。

!!重要!!

- 衣類や人体には静電気が帯電していますので、作業を始める前に金属物（車など）に触れるなどして、静電気を逃してください。
- 本機のUniSlotインターフェースコネクタには手を触れないでください。

1 カメラのカバーを外します。

- カメラのスロット部の取付ねじをゆるめてカバーを外します。外したカバーと取付ねじは大切に保管してください。

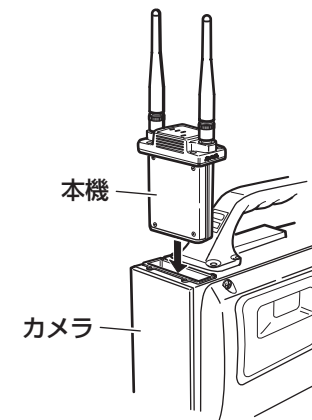


2 本機を取り付けます。

- 本機をカメラのスロット部へ挿入し、本機に装着されているカメラ取付用ねじ4本で取り付けます。※詳しくは、取り付けるカメラの取扱説明書をお読みください。

!!重要!!

- ねじがゆるんでいると、コネクタの接続不良やパッキンの水漏れが生じる恐れがあります。また、本機がカメラから外れる恐れがあるため、確実に固定してください。



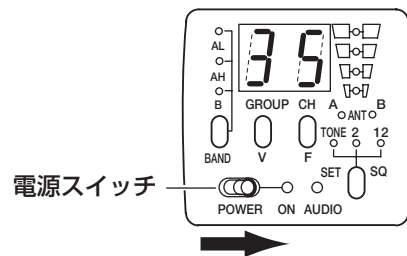
電源を入れる／切る

本機の電源を入れます。本機の電源は、本体の電源スイッチでON／OFFする他に、電源リモート機能に対応したカメラからのリモート操作でもON／OFFできます。

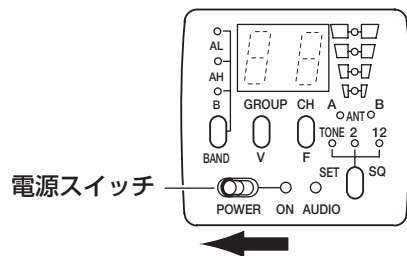
電源スイッチで電源を入れる／切る

1 電源スイッチをONにします。

- 電源を入れると前回使用されていた設定状態で起動します。
- ※ 電源スイッチをONにしてから音が出るまで2秒程度かかります。



2 電源を切るときは、電源スイッチをOFFにします。



電源リモート機能を使う

電源リモート機能に対応しているカメラから、電源のON／OFFをリモートで行うことができます。詳しくは、取り付けるカメラの取扱説明書をお読みください。

メモ

- 電源リモート機能で本機の電源を制御する場合は、本機の電源スイッチをOFFにして使用してください。
- 対応カメラ例：AJ-SDC615P（松下電器産業株式会社製）
本機の電源スイッチをOFFにしておくと、カメラ側のAUDIO INスイッチをWIRELESS側に切り替えることで、本機の電源を入れることができます。
※ 本機の電源スイッチがONのときは、カメラ側からの電源制御はできません。

周波数・スケルチを設定する

本機が受信する周波数を設定します。設定する周波数は送信機と同じ周波数にしてください。送信機の設定については、送信機の取扱説明書をお読みください。

送信機を複数使用する場合は、21～22ページの「複数の送信機の同時使用について」をお読みのうえ設定してください。

!!重要!!

- 設定完了前に電源スイッチをOFFにすると、設定内容が無効になります。
- スイッチは指で操作してください。ボールペンなど先のとがったもので操作すると、スイッチが破れて操作できなくなる場合があります。

バンド・グループ・チャンネルを設定する

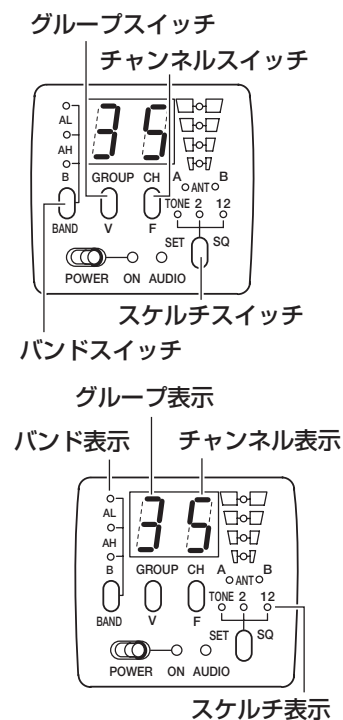
バンド、グループ、チャンネルを設定して、受信する周波数を決定します。

1 本機の電源を入れ（※16ページ）、スケルチスイッチを1秒以上押します。

- 本機が設定変更モードになり、バンド表示、グループ表示、チャンネル表示、スケルチ表示が、現在の設定状態で点滅します。

!!重要!!

- 設定変更モードになったら、3秒以内に各スイッチを操作してください。3秒以上経つと、設定変更モードが終了します。



(次ページへ続く)

周波数・スケルチを設定する（つづき）

2

バンドを設定します。

- バンドスイッチを押すとバンド表示のみが点滅し、設定を変更できるようにになります。
- 設定したいバンドのバンド表示が点滅するまで、バンドスイッチを繰り返し押します。

メモ

- AL・AHバンド、AL・AH・Bバンドが同時に点滅する設定があります。これは多チャンネルを示しています。多チャンネルについては21～22ページをお読みください。

3

グループを設定します。

- グループスイッチを押すとグループ表示のみが点滅し、設定を変更できるようにになります。
- 設定したいグループが表示されるまで、グループスイッチを繰り返し押します。

4

チャンネルを設定します。

- チャンネルスイッチを押すとチャンネル表示のみが点滅し、設定を変更できるようにになります。
- 設定したいチャンネルが表示されるまで、チャンネルスイッチを繰り返し押します。

5

設定を終了します。

- すべての設定が終了したら、3秒以上、何も操作しないでください。3秒以上経つと表示が点滅から点灯になり、設定が完了します。
- 設定が完了したら、送信機の音声を正常に受信できることを確認してください。正常に受信できないときは、34ページからの「故障かな!？」をお読みのうえ、設定を再度確認してください。

スケルチを設定する

スケルチの設定には、特定周波数を含まない電波を回避する「トーンスケルチ」と受信感度を設定する「レベルスケルチ」とがあります。

トーンスケルチについて

スケルチ表示の [TONE] で、トーンスケルチの設定状態を表わします。点灯時は設定、消灯時は解除です。

- 設定：トーン周波数32.927 kHzを含んだRAMSAシリーズの送信機の電波を受信し、音声を出力します。
- 解除：トーン周波数を含まない電波も受信し、音声を出力します。

レベルスケルチについて

スケルチ表示の [2]、[12] でレベルスケルチの設定状態を表わします。[2] 点灯時は2 dB、[12] 点灯時は12 dB、両方消灯時は解除されています。

- 2 dB：2 dB μ V以上の電波を受信します。到達距離を優先させたいときに使用します。ただし、送信機との距離が離れると、混信が起こったりノイズが入りやすくなります。到達距離の目安は、送信機の送信出力設定が10 mWのとき約90 m程度です。
- 12 dB：12 dB μ V以上の電波を受信します。送信機を近くで使用する場合は、こちらの設定にしてください。混信やノイズを低減することができます。
- 解除：2 dB μ V未満の電波も受信します。電波を何も受信していないときには過大な雑音が出力されますので、雑音があっても受信を優先する場合や、不要な電波の所在を確認する場合以外は、レベルスケルチを解除しないでください。

!!重要!!

- レベルスケルチが解除されていると、電波を何も受信していないときに過大な雑音が出力されます。電波を受信していない状態でレベルスケルチを解除に設定した直後や送信機の電源を切った直後は、十分ご注意ください。
- 到達距離は取り付けるカメラや使用環境などにより変わる場合があります。
- RAMSA送信機に対応していますので、混信などを防ぐためにも、トーンスケルチは設定状態にして使用してください。

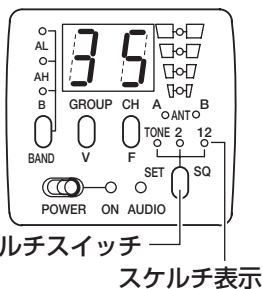
(次ページへ続く)

周波数・スケルチを設定する (つづき)

1 本機の電源を入れ、スケルチスイッチを1秒以上押します。(17ページ)

2 スケルチスイッチを押して、スケルチを設定します。

- スケルチスイッチを押すとスケルチ表示のみが点滅し、設定を変更できるようになります。
トーンスケルチ、レベルスケルチ共に解除(消灯)に設定した場合は、スケルチ表示の[TONE]、[2]、[12]が短い点灯/長い消灯の繰り返し点滅になります。
- スケルチスイッチを押すたびに下表のようにスケルチ表示が切り替わります。



スケルチ表示			スケルチの設定	
TONE	2	12	トーンスケルチ	レベルスケルチ
○	○	○	解除	解除※1
○	●	○	解除	2 dB (到達距離：約90 m※2)
○	○	●	解除	12 dB (到達距離：約30 m※2)
●	○	○	設定	解除※1
●	●	○	設定	2 dB (到達距離：約90 m※2)
●	○	●	設定	12 dB (到達距離：約30 m※2)

●：点灯(設定) ○：消灯(解除)

※1 雑音があっても受信を優先する場合や、不要な電波の所在を確認する場合以外は、レベルスケルチを解除しないでください。

※2 送信機の送信出力設定が10 mWのときの到達距離の目安です。2 mW、5 mWに設定しているときの到達距離は、上表の2/3程度になります。

3 設定を終了します。

- すべての設定が終了したら、3秒以上、何も操作しないでください。3秒以上経つと、表示が点滅から点灯になり、設定が完了します。
- 設定が完了したら、送信機の音声を正常に受信できることを確認してください。正常に受信できないときは、34ページからの「故障かな!?’をお読みのうえ、設定を再度確認してください。

複数の送信機の同時使用について

多チャンネル使用

複数の送信機を同時に使用する際には、同じバンドの同じグループの中で周波数を設定しますが、周囲の環境や、使用する送信機の関係から、同じバンド、同じグループに設定できないときは、バンドをまたがって周波数を使用する多チャンネル使用に設定し、お使い頂くこともできます。

周波数表は、32~33ページの「多チャンネル使用の周波数表」を確認してください。多チャンネル使用の設定は、以下のようになります。

1 多チャンネル使用のバンドを設定します。

- 設定方法は、17~18ページのバンドの設定と同じです。
バンドスイッチを繰り返し押して、下記のような多チャンネル使用に設定します。

バンド表示	多チャンネル使用の設定
● AL ● AH ○ B	AL・AH点灯(LH) ：ALバンドとAHバンドにまたがる多チャンネルの設定
● AL ● AH ● B	AL・AH・B点灯(LHB) ：ALバンド、AHバンド、Bバンドにまたがる多チャンネルの設定






●：点灯 ○：消灯

2 グループを設定します。

- 設定方法は、17~18ページのグループの設定と同じです。
設定したいグループが表示されるまで、グループスイッチを繰り返し押します。
- 同一空間で別のグループを同時に使用しないでください。

(次ページへ続く)

3 チャンネルを設定します。

- 設定方法は、17～18ページのチャンネルの設定と同じです。設定したいチャンネルが表示されるまで、チャンネルスイッチを繰り返し押します。
- チャンネルの表示は、以下のようになります。
チャンネル1～9 =  ~ 
チャンネル10 = 
チャンネル11 = 
チャンネル12 = 
- それぞれの送信機は、すべて違うチャンネルに設定してください。

バンド単独使用時の周波数表での注意事項

- すべての送信機を同じバンド、同じグループにし、それぞれの送信機をグループの中の違うチャンネルに設定してください。ただし、「-」グループ内では、異なるチャンネルにしても同時に複数の送信機を使用することはできません。
- 使用するチャンネルは周波数表（29～31ページ）を確認してください。
- 同一空間で、別のバンドまたは別のグループを同時に使用しないでください。



7波以上を同時に使用する際の注意事項

- 7台以上の送信機を同時に使用する際は、次の条件下で十分に注意してお使いください。

送信機の送信出力設定	送信機間の距離	送信機と受信機の距離
2 mW / 5 mW	0.5 m以上離す	5 m以上離す
10 mW	1.0 m以上離す	10 m以上離す

スケルチの設定に従ってバンドまたはグループの全チャンネルをスキャンし、チャンネルの使用状況を確認できます。

スキャン機能には、「バンドスキャン」と「グループスキャン」の2種類があります。

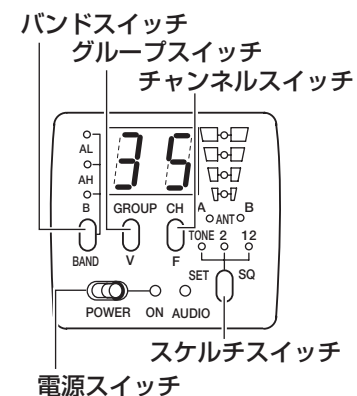
- **バンドスキャン**：設定されているバンドのグループとチャンネルの使用状況を確認できます。バンドスキャン中は、グループ表示  の「.」（ピリオド）が点滅します。
- **グループスキャン**：設定されているグループのチャンネルの使用状況を確認できます。グループスキャン中は、チャンネル表示  の「.」（ピリオド）が点滅します。

!! 重要 !!

- スイッチは指で操作してください。ボールペンなど先のとがったもので操作すると、スイッチが破れて操作できなくなる場合があります。
- トーンスケルチ、レベルスケルチが共に解除の場合、強制的に受信状態となるためスキャンは停止します。

1 スキャンを実行します。

- バンドスキャンを行う場合は、バンドスイッチを押しながら電源スイッチをONにします。
- グループスキャンを行う場合は、グループスイッチを押しながら電源スイッチをONにします。
- 使用されている周波数で、スキャンが停止します。



※電源リモート機能に対応しているカメラを使用する場合、本機の電源スイッチではなく、カメラ側の電源リモート機能を使用して本機の電源を入れてください。

（次ページへ続く）

●スキャン中に可能な操作

- ・スキャンの停止：バンドスイッチ、グループスイッチ、チャンネルスイッチ、スケルチスイッチのいずれかのスイッチを押すとスキャンが停止します。

●スキャン停止中に可能な操作

- ・バンドの変更：バンドスイッチを押すとバンドを変更できます。(18ページ)
- ・グループの変更：グループスイッチを押すとグループを変更できます。(18ページ)
- ・周波数の確認：チャンネルスイッチを押すと停止中の周波数を確認できます。(25ページ)
- ・再スキャン：スケルチスイッチを押すと、スキャンが再スタートします。

※スキャン停止中は、受信動作時と同様に電波を受信できます。

2 スキャンを終了するときは、電源スイッチをOFFにします。

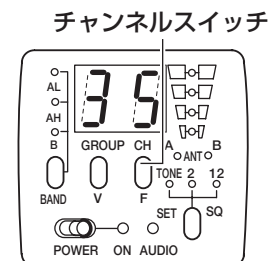
※電源リモート機能に対応しているカメラを使用する場合、本機の電源スイッチではなく、カメラ側の電源リモート機能を使用して本機の電源を切ってください。

周波数を確認する

設定されているバンド、グループ、チャンネルの周波数を確認できます。

1 本機の電源を入れ (16ページ)、チャンネルスイッチを押します。

- チャンネルスイッチを押すと、グループ表示、チャンネル表示に、設定されている周波数を1けたごとに表示します。



例：「B11」表示中、チャンネルスイッチを押します。
(周波数=806.125 MHz)



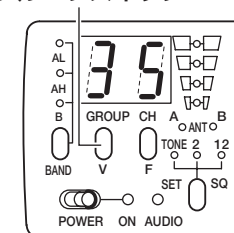
電源電圧を確認する

使用中の電源電圧を確認できます。

1 本機の電源を入れ (16ページ)、グループスイッチを押します。

- グループスイッチを押すと、使用中の電源電圧を1けたごとに表示します。

グループスイッチ



例：「B11」表示中、グループスイッチを押します。
(電源電圧=5.6 V)



メモ

- 本機の電源スイッチがOFFの状態、カメラ側のリモートスイッチで電源がONのときは、実際の電源電圧よりも0.2 V程度低い値が表示されません。
- 本機は、送信機の電池残量表示機能には対応していません。

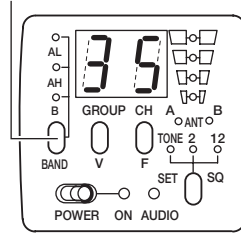
多チャンネル使用時のバンド・グループ・チャンネルを確認する

多チャンネルに設定しているときに、送信機で設定するバンド、グループ、チャンネルを確認することができます。

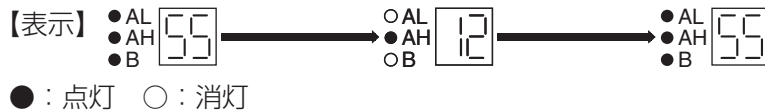
1 本機の電源を入れ (※16ページ)、バンドスイッチを押します。

- 多チャンネル表示時に使用すると、送信機の周波数の設定を確認することができます。
- バンド単独使用時も同様に動作します。

バンドスイッチ



例：LHB55 (AL・AH・B・55) 表示中、バンドスイッチを押します。
(送信機の周波数設定=AH12)



受信レベルの強弱を確認する (RFワーニング機能)

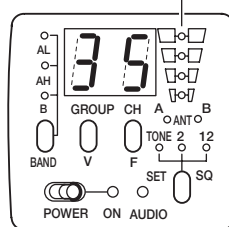
RFワーニング機能に対応しているカメラを使用すると、受信レベルの強弱をカメラのビューファインダーで確認できます。詳しくは、取り付けるカメラの取扱説明書をお読みください。

- 対応カメラ例：AJ-SDC615P (松下電器産業株式会社製)
本機で受信する電波のレベルが弱い場合、カメラのビューファインダーに受信レベルが弱いことを示すワーニングが表示されます。

受信レベル表示について

電波の受信レベルを4ポイントで表示します。少なくとも3ポイントが点灯する範囲で使用してください。
※送信機の電源がOFFのときに、受信レベル表示が点灯するときは、周囲環境による外来ノイズが考えられます。その場合は、レベルスケルチを12 dBに設定してください。(※19~20ページ)

受信レベル表示



No	FUNCTION	方向	カメラ側の機能	受信機側の機能	
				機能	備考
1	CH-1 SHIELD	RX →CAM	受信機からの音声入力	音声出力：GND	
2	CH-1H	RX →CAM	受信機からの音声入力	音声出力：HOT	
3	CH-1C	RX →CAM	受信機からの音声入力	音声出力：COLD	
4	GND		GND	GND	
5	+12V UNREG	CAM→RX	カメラからの電源出力 (12 V)	未使用	
6	RX ON	CAM→RX	受信機の電源リモート HiのときON	電源リモート入力	Hi=3 V Low=0 V
7	RF WARN	RX →CAM	マイクからのRFレベルが低下したときLowを出力	RFワーニング出力	Hi=3 V Low=0 V
8	RM5	REM→RX	リモートパネルとのI/Fに使用	未使用	
9	RM4	REM→RX	リモートパネルとのI/Fに使用	未使用	
10	SPARE 1			未使用	
11	SPARE 2			未使用	
12	EXT CLK	CAM→RX	カメラからのPLL用CLK出力 13.5 MHz	未使用	
13	CLK SHIELD	CAM→RX	同上用シールド	未使用	
14	CH-2 SHIELD		(予備) 受信機からの音声入力	未使用	
15	CH-2 H		(予備) 受信機からの音声入力	未使用	
16	CH-2 C		(予備) 受信機からの音声入力	未使用	
17	+5.6V	CAM→RX	カメラからの電源出力 200 mA max/ch	電源入力	+5.6 V
18	VIDEO OUT	CAM→AUX	(予備) カメラ出力または VTR再生画 VBS	未使用	
19	VIDEO RET	CAM→AUX	(予備) 同上用シールド	未使用	
20	VIDEO EN	AUX→CAM	(予備) HiのときVIDEO OUT	未使用	
21	RM 1(RM CLK)	RX →REM	リモートパネルとのデジタルI/F	未使用	
22	RM 2(RM DATA)	RX →REM	リモートパネルとのデジタルI/F	未使用	
23	RM 3(RM WR)	RX →REM	リモートパネルとのデジタルI/F	未使用	
24	RM +5V	RX →REM	リモートパネル用電源	未使用	
25	RM GND	RX →REM	リモートパネル用GND	未使用	

CAM=CAMERA、RX=WIRESS RECEIVER、AUX=exp.TX、
REM=REMOTE PANEL

お買い上げ時の設定について

各種設定をお買い上げ時の状態に戻したい場合は、それぞれの操作スイッチを以下に従って設定してください。

なお、設定のしかたはそれぞれの操作の説明のページをお読みください。

項目	お買い上げ時の状態	参照ページ
バンド	AL	17~18
グループ	1	17~18
チャンネル	1	17~18
トーンスケルチ	設定	19~20
レベルスケルチ	2 dB	19~20
電源スイッチ	OFF	16

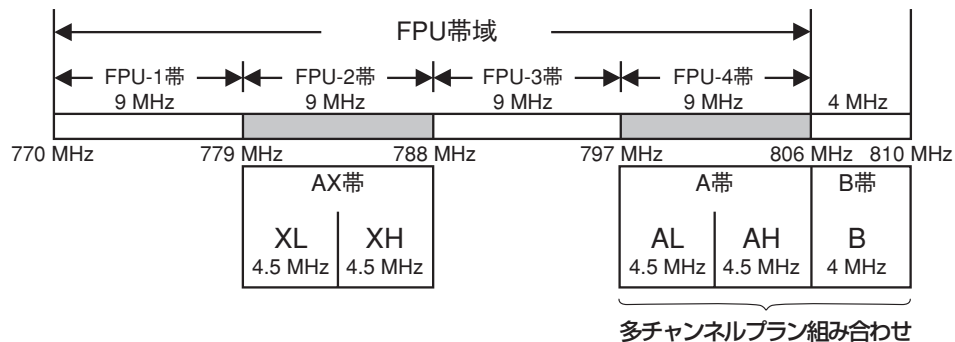
周波数表

A帯 (FPU-4帯) ALバンド

バンド	FPU-4帯・B帯連番	バンド連番	受信周波数 [MHz]	バンド単独使用時のグループ									
				1	2	3	4	5	6	7	—		
				6波	6波	6波	6波	5波	1波	7波	※注		
A L バ ン ド	1	1	797.125	L11								L71	
	2	2	797.250		L21								
	3	3	797.375	L12								L72	
	4	4	797.500		L22								
	5	5	797.625			L31							
	6	6	797.750				L41						
	7	7	797.875					L32				L73	
	8	8	798.000		L23								
	9	9	798.125	L13									
	10	10	798.250								L61		
	11	11	798.375			L33							
	12	12	798.500				L42					L74	
	13	13	798.625					L51					
	14	14	798.750	L14									
	15	15	798.875		L24								
	16	16	799.000				L43						
	17	17	799.125					L52					
	18	18	799.250			L34							
	19	19	799.375					L53					
	20	20	799.500		L25							L75	
	21	21	799.625			L35							
	22	22	799.750					L54					
	23	23	799.875		L26								
	24	24	800.000	L15									
	25	25	800.125					L44					
	26	26	800.250			L36							
	27	27	800.375					L45				L76	
	28	28	800.500	L16									
	29	29	800.625					L55					
	30	30	800.750					L46				L77	
	31	31	800.875										L-1
	32	32	801.000										L-2
	33	33	801.125										L-3
	34	34	801.250										L-4
	35	35	801.375										L-5
	36	36	801.500										L-6

FPU (フィールドピックアップユニット) 帯域とバンドの関係

AX帯とA帯の各バンドは、FPU帯域において下図のように割り当てています。また、B帯は806 MHz~810 MHzの帯域です。



●周波数表中の記号の読み方

例 L 2 1
 ↓ ↓ ↓
 ↓チャンネルを表します。
 ↓グループを表します。
 「-」は「-」グループを表します。
 ↓バンドを表します。
 LはALを表します。

- 「1」～「7」の同一グループの各チャンネルは同時に使用することができます。
- 「-」グループの各チャンネルは、同時に使用することはできません。「-」グループは、必ず1つのチャンネルを設定してください。(※注：ALバンドは6波)

補足

補足

周波数表 (つづき)

A帯 (FPU-4帯) AHバンド

バンド	FPU-4帯・B帯連番	バンド連番	受信周波数 [MHz]	バンド単独使用時のグループ								
				1	2	3	4	5	6	7	-	
				6波	6波	6波	6波	5波	1波	7波	※注	
AHバンド	37	1	801.625	H11							H71	
	38	2	801.750		H21							H72
	39	3	801.875	H12								
	40	4	802.000		H22							
	41	5	802.125			H31						
	42	6	802.250				H41					
	43	7	802.375			H32					H73	
	44	8	802.500		H23							
	45	9	802.625	H13								
	46	10	802.750						H61			
	47	11	802.875			H33						
	48	12	803.000				H42			H74		
	49	13	803.125					H51				
	50	14	803.250	H14								
	51	15	803.375		H24							
	52	16	803.500				H43					
	53	17	803.625					H52				
	54	18	803.750			H34						
	55	19	803.875					H53				
	56	20	804.000		H25						H75	
	57	21	804.125			H35						
	58	22	804.250					H54				
	59	23	804.375		H26							
	60	24	804.500	H15								
	61	25	804.625				H44					
	62	26	804.750			H36						
	63	27	804.875				H45				H76	
	64	28	805.000	H16								
	65	29	805.125					H55				
	66	30	805.250				H46				H77	
	67	31	805.375									H-1
	68	32	805.500									H-2
	69	33	805.625									H-3
	70	34	805.750									H-4
	71	35	805.875									H-5

●周波数表中の記号の読み方

例 H 2 1

- ↑ チャンネルを表します。
- ↑ グループを表します。
- ↑ 「-」は「-」グループを表します。
- ↑ バンドを表します。
- HはAHを表します。

- 「1」～「7」の同一グループの各チャンネルは同時に使用することができます。
- 「-」グループの各チャンネルは、同時に使用することはできません。
- 「-」グループは、必ず1つのチャンネルを設定してください。
- (※注：AHバンドは5波)

B帯

バンド	FPU-4帯・B帯連番	バンド連番	受信周波数 [MHz]	バンド単独使用時のグループ								
				1	2	3	4	5	6	7		
				6波	6波	6波	6波	5波	1波	7波		
Bバンド	73	1	806.125	B11								B71
	74	2	806.250		B21							
	75	3	806.375	B12								B72
	76	4	806.500		B22							
	77	5	806.625			B31						
	78	6	806.750				B41					
	79	7	806.875			B32						B73
	80	8	807.000			B23						
	81	9	807.125	B13								
	82	10	807.250								B61	
	83	11	807.375			B33						
	84	12	807.500				B42			B51		B74
	85	13	807.625									
	86	14	807.750	B14								
	87	15	807.875		B24							
	88	16	808.000				B43					
	89	17	808.125							B52		
	90	18	808.250			B34						
	91	19	808.375							B53		
	92	20	808.500		B25							B75
	93	21	808.625			B35						
	94	22	808.750							B54		
	95	23	808.875		B26							
	96	24	809.000	B15								
	97	25	809.125					B44				
	98	26	809.250			B36						
	99	27	809.375					B45				B76
	100	28	809.500	B16								
	101	29	809.625							B55		
	102	30	809.750					B46				B77

●周波数表中の記号の読み方

例 B 2 1

- ↑ チャンネルを表します。
- ↑ グループを表します。
- ↑ バンドを表します。

- 「1」～「7」の同一グループの各チャンネルは同時に使用することができます。

補足

補足

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときやわからないとき、この表以外の症状のときはまたは工事に関係する内容のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症状	原因・対策	参照ページ
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ●電源スイッチはONになっていますか？ ➔電源リモート機能を使用しない場合は、本機の電源スイッチをONにしてください。 	16
	<ul style="list-style-type: none"> ●カメラのスロット部に本機が正しく装着されていますか？ ➔正しく装着してください。 	15
	<ul style="list-style-type: none"> ●カメラは正常に動作していますか？ ➔カメラ側の動作を確認してください。 	カメラの取扱説明書
受信がまったくできない（音声が出力されない、受信レベル表示が反応しない）	<ul style="list-style-type: none"> ●送信機の電源（乾電池）は入っていますか？ ➔送信機に乾電池を入れ送信状態にしてください。 ●送信機が送信する周波数と受信機が受信する周波数の設定は合っていますか？ ➔バンド、グループ、チャンネルの設定を送信機と同じにしてください。多チャンネル使用の場合は、周波数表を確認してください。 	送信機の取扱説明書 17~18、32~33
時々受信できなくなる、または雑音が出力される	<ul style="list-style-type: none"> ●近くに雑音発生源となる機器がありませんか？ ➔本機から遠ざけてください。 	9~10

症状	原因・対策	参照ページ
混信する	<ul style="list-style-type: none"> ●送信機の送信周波数が重複していませんか？ ➔送信機はすべて異なる周波数（チャンネル）に設定してください。 ●複数のグループを同時に使用していませんか？ ➔同時に使用する送信機のグループは、1つにしてください。 ●複数の送信機を近づけて使用していませんか？ ➔距離を離して使用してください。 ●送信機を受信機のアンテナに近づけて使用していませんか？ ➔距離を離して使用してください。 ●送信機の送信出力設定が「10 mW」になっていませんか？ ➔「2 mW」または「5 mW」に切り替えてください。 ●近くで別のワイヤレスシステムを使用していると、混信する場合があります。 ➔別のワイヤレスシステムの設定を確認し、使用周波数が重複しないように本システムのグループまたはチャンネルの設定を変更してください。 ●近くに高周波を使う機器や雑音発生源があると、混信する場合があります。 ➔送信機と受信機のアンテナの距離を短くして使用してください。 	21~22、送信機の取扱説明書 21~22、送信機の取扱説明書 10 10 送信機の取扱説明書 17~18、送信機の取扱説明書 9~10
音声がでない	<ul style="list-style-type: none"> ●カメラのスロット部に本機が正しく装着されていますか？ ➔正しく装着してください。 ●カメラは正常に動作していますか？ ➔カメラ側の動作を確認してください。 	15 カメラの取扱説明書

故障かな!?(つづき)

症状	原因・対策	参照ページ
雑音出力が止まらない	<ul style="list-style-type: none"> トーンスケルチ、レベルスケルチが共に解除の設定になっていませんか？またはレベルスケルチが「2」に設定されていませんか？ →設定を確認してください。 	19~20
音切れする	<ul style="list-style-type: none"> 送信機の送信出力設定が「2 mW」または「5 mW」になっていませんか？ →「10 mW」に切り替えてください。 	送信機の取扱説明書
設定変更モードでチャンネルが切り替わらない	<ul style="list-style-type: none"> 「6」グループに設定されていませんか？ →バンド単独使用時は、各バンドの「6」グループは1チャンネルのみです（変更できるチャンネルは、設定されたバンドとグループ内のみ）。他の周波数に変更するには先にグループを変更してください。 	17~18、29~31
スキャン停止中に再スキャンを実行しても一時停止状態になる	<ul style="list-style-type: none"> トーンスケルチ、レベルスケルチが共に解除の設定になっていませんか？ →スケルチが解除されていると、正しくスキャンを実行しても、周波数が変わるたびに一時停止します。スケルチの設定を変更してください。 	19~20
設定変更モードでスケルチを変更すると、音声途切れることがある	<ul style="list-style-type: none"> 過大な雑音が発生するのを防ぐため、トーンスケルチ・レベルスケルチを共に解除に変更した場合のみ、変更した時点から3秒間本機は音声出力をミュートします。 →3秒経過後は音声を出力します。また、3秒経過前にほかの設定の変更に移ったり、設定変更モードから戻ると、音声を出力するようになります。 	19~20

症状	原因・対策	参照ページ
受信レベルの強弱をカメラ側で確認できない	<ul style="list-style-type: none"> カメラのスロット部に本機が正しく装着されていますか？ →正しく装着してください。 	15
表示が点滅しそれ以上操作ができない	<ul style="list-style-type: none"> 内部のPLL回路に異常がある場合にグループ、チャンネルの表示が点滅し操作ができなくなります。 →再度、電源を入れ直してください。それでも直らない場合はお買い上げの販売店に修理を依頼してください。 	—
グループ、チャンネル表示部に「Er」が表示される	<ul style="list-style-type: none"> 内部のメモリーに異常がある場合に「Er」が点滅表示されます。 →再度、電源を入れ直してください。それでも直らない場合はお買い上げの販売店に修理を依頼してください。 	—

仕様

受信周波数	797.125 MHz~805.875 MHz 71波 806.125 MHz~809.750 MHz 30波 合計101波中の1波 (周波数表による)
中間周波数	248.1 MHz、10.7 MHz
電源	カメラより供給 (Dsub No.17 : +5.6 V入力/No.4 : GND)
消費電流	200 mA以下
電源表示	供給電圧 約4.3 V以上 : 緑色点灯 供給電圧 約4.3 V~4.1 V : 赤色点灯 供給電圧 約4.1 V未満 : 消灯
受信方式	スペースダイバシティ受信 ダブルスーパーヘテロダイン方式
受信感度 (S/N)	40 dB以上 (5 dB μ V入力、 \pm 12.5 kHz FM)
受信帯域幅	100 kHz
選択度	60 dB以上 (\pm 250 kHz離調)
レベルスケルチ	解除/2 dB μ V/12 dB μ Vの切替可能
トーンスケルチ	32.927 kHz 設定/解除の切替可能
アンテナ形式	1/2 λ フレキシブルアンテナ
アンテナコネクタ	BNCコネクタ
基準出力レベル	-44 dB (\pm 4 kHz FM/1 kHz入力) (0 dB=0.775 Vrms)
信号対雑音比	60 dB以上 (36 dB μ V入力、 \pm 4 kHz FM、Aカーブ)
ダイナミックレンジ	100 dB以上 (36 dB μ V入力、 \pm 40 kHz FM、Aカーブ)
ディエンファシス	50 μ s
音声信号処理	1 : 2デシリニア伸長
周波数特性	40 Hz ~ 15 kHz (\pm 3 dB)
ひずみ率	1.0 %以下 (\pm 12.5 kHz FM)
受信レベル表示	約0 dB μ V/10 dB μ V/20 dB μ V/30 dB μ Vの4ポイント表示

音声出力レベル表示	最大出力レベル (最大変調出力) に対して 0 dB~-6 dBで赤色点灯 -6 dB~-36 dBで緑色点灯 -36 dB未満で消灯 (常温25 $^{\circ}$ C使用時)
音声出力	電子バランスによる低インピーダンス出力 (Dsub No.1 : GND/No.2 : HOT/No.3 : COLD)
RFワーニング出力	約10 dB μ V以下で出力 (Dsub No.7 : Low出力)
使用温度範囲	0 $^{\circ}$ C ~ +40 $^{\circ}$ C
寸法 操作パネル部	幅78 mm 高さ25 mm 奥行き35 mm (アンテナ含まず)
挿入部	幅68 mm 高さ84 mm 奥行き18 mm (コネクタ含む)
質量	約240 g (アンテナ含む)
仕上げ 操作パネル部	インディゴブラック色塗装

補
足

補
足

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このワイヤレス受信機の補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

34～37ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、電源を切ってから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。

修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容

製品名	ワイヤレス受信機
品番	WX-RM770A
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

Panasonic®

ワイヤレス受信機

WX-RM770A

取扱説明書

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です)

お買い上げ日	年 月 日	品番	WX-RM770A
販売店名	電話 () -		

松下電器産業株式会社

ブロードメディア本部

〒223-8639 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号
電話 フリーダイヤル 0120-878-410